

平成24年度プロジェクト評価結果取り纏め状況等(前半)

1. 今年度評価状況等

(1)今年度は、32件【中間評価10件、事後評価22件】の評価を実施予定。

このうち、13件【中間評価9件、事後評価4件】について、各分科会での評価作業、第32回及び今回の研究評価委員会での審議を経て、評価報告を取り纏め、以下に整理した。

(2)中間評価結果は、プロジェクトの拡大、変更、縮小、中止等の今後の運営方針に反映し、事後評価結果も含めて、得られた教訓は、NEDOの研究開発マネジメントの高度化に繋げることが重要。

2. 中間評価の概要

(1) 全体傾向

各評価項目の評点結果の平均から見た全体傾向は、全体的に昨年より若干低めである。

(表1)

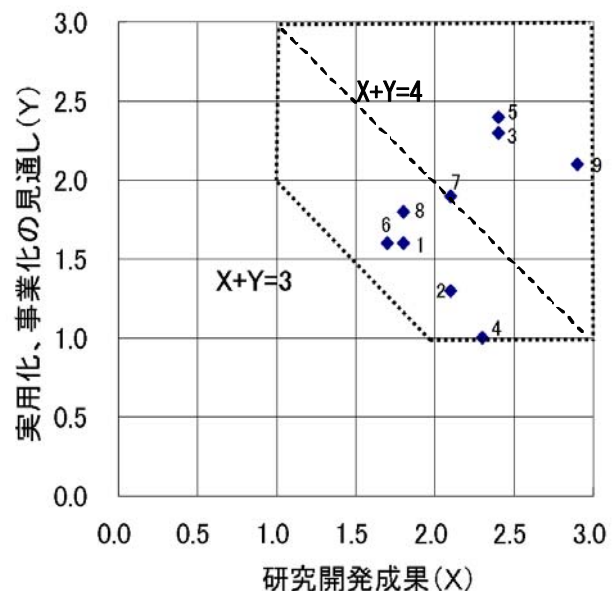
表1. 評価項目ごとの平均値推移

	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
24年度 9件	2.7	2.0	2.2	1.8
23年度 10件	2.7	2.2	2.3	2.1
22年度 16件	2.8	2.0	2.1	1.6
21年度 25件	2.8	2.2	2.3	1.9
20年度 22件	2.8	2.2	2.4	2.0

また、上期に実施した9件のプロジェクトは、いずれも一定水準以上の評価結果であった。

(表2)

表2. 中間評価結果の評価分布(参考)



別紙2に代表する肯定的内容や改善点・提言を含めた評価結果について、現在、その反映作業を進めており、プロジェクトの拡大・変更・縮小・中止等、今後の運営に資する。

(注)標準的評価項目に対しA(優)B(良)C(可)D(不可)の4段階の評点を付け、A=3, B=2, C=1, D=0として事務局が数値換算。平均値を算出する。

* 表中の数字は別紙1の整理番号

(2) 個別プロジェクト(別紙2参照)

① 高い評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
9	後天的ゲノム修飾のメカニズムを活用した創薬基盤技術開発	2.8	2.8	2.9	2.1

→ 後天的ゲノム修飾(エピゲノム修飾)を標的とした、癌の診断及び治療法開発のための基盤技術の開発を行うプロジェクトである。短い研究期間でありながら、世界に通用する技術、今後の発展が期待できる技術も着実に育成されていると評価された。

② 合格ではあるが、厳しめの評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
6	次世代素材等レーザー加工技術開発プロジェクト	2.3	1.1	1.7	1.6

→ 目標設定について厳しい指摘がなされ、マネジメントで厳しい評点となった。成果はほぼ中間目標を達成しているが、目標設定、開発計画、応用先について、見直しが求められた。

3. 事後評価結果の概要

(1) 全体傾向

上期においては、年間予定数22件のうち 4件について評価。

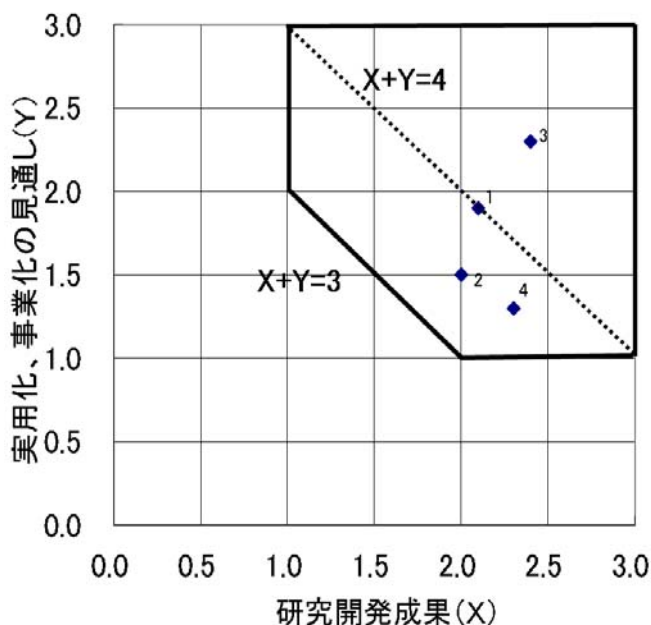


表 3. 事後評価結果の評点分布

* 表中の数字は別紙1の整理番号

(2) 個別プロジェクト(別紙2参照)

①高い評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
3	半導体機能性材料の高度評価基盤の開発	3.0	3.0	2.4	2.3

→競合企業の参画を可能にした運営方針と運営体制が評価され、マネジメントで高い評点を得た。新材料の評価基盤(装置だけでなく、TEG 及び評価基準)が整備されたことで、材料メーカーの競争力強化につながったと評価された。

②合格ではあるが、厳しめの評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
1	微生物機能を活用した環境調和型製造基盤技術開発 ／微生物群のデザイン化による高効率型環境バイオ 処理技術開発	2.7	2.0	2.0	1.5

→ 全体目標に対して、廃水・廃棄物処理微生物生態系の人工的構築・人工的制御という観点から有望な成果が得られており、成果の評価はある程度高いが、実用化見通しについては、個別の研究課題における達成度に差異がみられ、厳しい評価となった。

4. 後半の評価予定 (別紙1参照)

現在、後半のプロジェクトについて評価分科会での評価を進めている。今年度中に更に2回研究評価委員会を開催する予定。

(1月、3月を予定。事後評価(事後評価の前倒し実施含む)18件附議予定。)